

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせてまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 談話/女性ニュース
- 3面 読者のページ/まんが/俳句
- 4面 婦人保護/あこのころの暮らし/LGBT/法律相談
- 5面 憲法講座/ホット
- 6面 手づくり/もう一品/母の歴史
- 7面 新婦人のページ/主張/女性の体



大阪・吹田市 小車程子(7)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

親の家の片付け、どうしていますか？ 新婦人しんぶん3面の読者投稿「親の家、片付けたいけど…」にもたくさんのお経験談が寄せられました。「自分の断捨離と親の家の片付けをして第二の人生がスタートできた」という人がいる一方、「親の気持ちに寄り添うと捨てられない」と悩んでいる人も。生前整理アドバイザーの古田ゆかりさんに、片付けの心得を聞きました。



生前整理アドバイザー 古田ゆかりさん

なぜ、すすまないのか

久しぶりに離れて暮らす親の家を訪れたとき「あれ？」と感じたり、介護が必要になり車いすで移動できるようにしたいと不安になる、自分の



気持ちよくすすめたい 親の家の片付け

我が物であふれた部屋をどうしたらいいか...という話はよく聞きます。なぜ、親の家の片付けがすすまないのか。それは、まず親が片付けを必要としないのです。必要なものが見えていないと不安になる、自分の

周りに置いておきたい、というのがあります。能力的なことでは片付け方がわからなくなっている、判断力や体力がなくなっているということがあります。ごみはごみだ

しまいがちです。「なにか困っていることはない?」「手伝えることある?」「といった声かけから始めてみてください。すぐにしてほしいことは出てこないかもしれませんが、子どもが心配して手伝いたいと思っていることが伝わるでしょう。

親とどう接するか

すぐ捨てなくてもいい

分せず、いったん家に持ち帰ってから捨てるというのでもいいかもしれません。「それは触らないで」と言われたら、触らない。片付けの最中に親の

会員のみなさまへ、読者のみなさまへ
9月の新婦人しんぶんは、
毎号4ページで発行します

新婦人しんぶんのご愛読と日ごろのご協力に深く感謝を申し上げます。

東京五輪の強行など普・自公政権の大失政のもと、新型コロナウイルス変異株の感染爆発が止まらず、「命の危険にさらされる恐怖」を感じる異常事態です。会員・読者のみなさまもかつてない不安を深めていることと思います。

感染力が強いデルタ株が首都圏で急拡大した7月以降、身近に感染者が増え、新婦人しんぶんの編集作業も含め、活動がいっそう制約され、あらたな対応が必要となっております。

これまでのしんぶん合併・休刊の措置には、「ページを減らしても毎週発行できないか」の声が多く寄せられました。印刷工場の制約で、支那などの仕分け段階で4ページ分に引き抜く作業が必要のため見送ってしまいましたが、9月の新婦人しんぶんは毎号4ページで発行する決断に至りました。

紙面を楽しみにしていただいている全国のみなさま、しんぶんの仕分けや配達を担当しているみなさまには、たいへん急な措置で迷惑をおかけいたします。また、ページを減らしての発行となりますが、購読料は月410円のままでお願いできれば幸いです。

引き続き、感染予防の社会的責任を果たしながら、全国をつなぎ、希望を届ける紙面づくりに全力をあげる決意です。みなさまのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

2021年8月20日

新婦人しんぶん編集部
新日本婦人の会

